

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成20年 3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0792830010		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム みらい		
所在地	〒969-0222 福島県西白河郡矢吹町八幡町827番 (電話) 0248-42-2950		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	平成20年4月8日

【情報提供票より】 (平成19年12月1日事業所記入)

開設年月日	昭和・平成 18年 4月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算 12.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	4~10月 9,000円 11~3月 12,000円	
敷金	有()円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(19,950円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 83.8歳	最低	54歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	会田病院、岩谷歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑が広がる自然豊かな環境の中にあり、大型ショッピングセンターや商店、食堂なども利用しやすい距離にあるという恵まれた地域にある開設後2年の平屋建て2ユニットのホームである。共用空間、居室など全体的に広くゆったりとした造りになっている。管理者を中心に職員のチームワークが良く、利用者の表情がとても穏やかである。職員は業務に必要な学習や資格取得に意欲的に取り組み、ケアに反映させている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回指摘された項目については、全職員で取り組み改善している。また、継続的な研修の受講については、法人が計画的に研修会を実施し、職員の段階に応じ研修会に出席できる体制となっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価を行うとともに評価結果も全職員で検討し改善に取り組む姿勢がうかがえる。今後この評価結果を運営推進会議で報告することになっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は現在まで4回開催しているが、定期的な開催とはなっていない。内容は利用者の状況やスタッフの配置状況、行事に関する事項、事故発生状況等の報告が主な内容である。地域密着型サービスの観点から今後は定期的(概ね2ヶ月に1度)な開催が望まれる。運営推進会議には評価結果を報告し、地域に開かれたサービスを目指して、地域との交流に努められることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族へは毎月担当者が手紙でホームでの生活状況や金銭管理等の報告をしている。家族の面会が多く、面会時には利用者の状況等を報告し、さらに家族の意見や意向は些細なことでも収集し運営に反映させる体制となっている。なお、運営推進会議の充実により、今後さらに家族の意見や思いを容易に把握できると思われる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年末に町内会に加入し、回覧板などで地域との交流が徐々に増えてきている。運営推進会議には民生委員や区長も委員として参加されており、協力的であるので、今後、一層地域の交流に努められることを期待する。
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員で理念の見直しを行い、独自の理念を作りあげた。法人の理念とは別に事業所独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングでは職員全員で理念を唱和し、日々理念の共有を図り、実践に取り組んでいる。また、理念は職員や利用者・家族・来訪者にも見えるところに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年末に町内会に加入したが、年度途中からの加入だったので回覧板のみの交流だったが、4月からは本格的に地域活動等に参加する体制となっており、今後の地域活動に期待したい。	○	運営推進委員である区長や民生委員の方が協力的であるので、今後はいろんなアドバイスを頂き、地域の皆さんとの交流に努められたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、職員全員で日々のサービスを振り返りながら課題を明らかにし、評価に取り組んでいる。この評価結果を踏まえ、今後のサービスに活かしていくことにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在まで4回(3~5ヶ月に1度)開催しており、事業所の取り組み等の報告が主な内容である。今後は定期的(概ね2ヶ月に1回)に開催されることが望まれる。	○	運営推進会議を年間行事(例:奇数月の第3月曜日)として組み入れ、会議の内容もホームの状況報告等だけでなく、計画的に課題(外部評価の結果や避難訓練への協力等)を提案し、外部の視点からの意見を取り入れる機会としてほしい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月居室担当者が手紙で利用者の状況や金銭管理等の報告をしている。また、行事の折の利用者の写真も送付している。現在ホームだよりの作成を計画しており、さらに充実されと思われる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、面会時に要望を聞き取り、速やかに改善する努力をしている。また、今後、運営推進会議が充実されれば家族からの聞き取りも速やかに行えると思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年は職員の退職はなく、運営者は利用者と職員の馴染みの関係の重要性を認識しており、職員の交代については十分考慮している。管理者は職員と定期的に業務や生活環境等を話し合い、離職に至らないように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修として計画的な研修体制となっている。また、職員の資格取得を推奨するとともに資格取得者には待遇に反映させ、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所職員の勉強会を設け、情報交換や交流をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意なことをを教えてもらい、お互いに支え合いながら生活している。(料理、大正琴、習字、絵画、野菜作り等)		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常会話の中で（特に入浴介助時を利用して）利用者の思いを把握するよう努めている。それをもとに家族と話し合い、個々の希望に沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	近隣町村にグループホームがなく、現在6市町村からの利用者となっているが、ほとんどの家族が頻繁に面会に来ている。管理者や職員は、面会や電話等あらゆる機会に家族の意向の確認に努め、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直し以外にも状況の変化に応じて見直しをしている。また、居室担当者を決め、気づいたことを報告する体制となっているので、職員が利用者の状態変化にすぐに気づき、その状態変化に合わせて介護計画を見直し、ケアプランに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診結果は家族に報告し情報を共有している。また、家族が受診の同行をする場合、利用者の状況を詳しく説明し、受診後は詳細に報告を受け情報を共有している。評価当日も通院にご家族が対応しており、詳細に報告を受け情報の共有に努めていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化と終末期の方針を示している。また、事前確認書を作成し、利用者・家族と職員間で情報を共有しながら重度化した利用者に対しては、随時医師と連携し、家族の意志を確認しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に利用者等に「個人情報使用に関わる同意書」について説明し、同意を得ており、職員も個人情報に関わる誓約書を入職時に提出し、漏洩防止に努めている。また、管理者は、職員の意識向上を図りながら、日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを大切に体調や思いに配慮しながら、柔軟に支援している。買い物、外出等利用者の希望を取り入れ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしており、季節によってはホームの畑から野菜を取ってきたりしている。利用者がそれぞれ自分の役割を自然に行っており、職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。また利用者ごとに刻み食等にも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の希望を聞きながら入浴を支援しており、入浴中も会話を通して安心感や満足感を得られるように配慮している。また、入浴剤等利用して毎回違う温泉の気分を味わってもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	絵画が趣味の方の作品はプロ並みであり、いつでも絵筆を持てるよう支援している。また、毎日の天候を記入したり、日めくりカレンダーをめくる役割や季節によっては農作業等、利用者の力量に応じてをスタッフと一緒にに行い、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩や買い物は利用者の体調や気候に応じて支援している。季節によって散歩は日課としており、また、2~3人の小人数でお花見、白鳥見学、ドライブ等を順番に楽しんでおり、全員で外食も楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は施錠していない。ユニットごとに職員がさりげなく見守り、外出の気配を察知し、一緒についていくなど安全に配慮した自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。このうち1度は消防署からの協力を得て実施している。今後、地域の方から災害時にも協力が得られるよう努められたい。また、災害時の備蓄に取り組まれることを望む。	○	いろいろな状況を想定しながら防災訓練を実施し、できるだけ短時間で避難できるよう訓練することが大切である。また、災害時の食料や水の備蓄については、現在法人内でリストを作成し、4月から配置することになっているとのことであるので、期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事量や水分摂取量等を確認し記録している。食欲のない利用者へは、好みの食べ物や飲み物で対応し、状況に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、畳に掘りごたつのスペースやソファのコーナー等があり、利用者が安らいで過ごせるようテーブルの配置等工夫している。利用者が自分の居場所を確立し居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、それぞれに馴染みの物（タンス、写真、位牌等）を持ち込み利用者が過ごしやすい居室となっている。またテレビ等もあり各自が自由に過ごしている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム みらい

記入担当者名 廣瀬 幸子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。